

1010

第八頁

牛島

決行指定

局長委任

決裁指定

保存期限

房官臣大		課局務主		大臣		件名	番受
了結	領受	出提	領受	號番	大臣		
昭和 年	昭和 年	昭和 年	昭和 年	軍事 第三三號	委	満洲國司法官見學ニ關スル件	満普受第三〇九號
月	月	月	日		局長		
(裁決)行決		帶連		次官		參與官	起元應(課)名
覽回後	長局	長局	局長	高級	次官		
長課		長課		高級		書記官	軍務局軍事課
				牛島			
				主務副官		筆記者	審案
				主務課員			
				主務副官			
				主務課員			
				主務副官			
				主務課員			

政務次官回付 決裁前連帶 參與官 欽砲保

決行(決裁)後 回覽課名

起元應(課)名

軍務局軍事課

副官より果製鐵株式會社へ幡製鐵  
所長宛通牒

目下米朝視察中ノ別紙滿洲國司法官ニ對

シ來ル十一月二十五日貴所見學ヲ許可セラレ

タルニ付出頭ノ節便宜供與方可然取計

相成度

陸滿普第一七〇一號 昭和九年十二月拾九日

別紙

職名	官等	姓名	年齢
奉天高等法院長	簡任二等	婁學謙	四三
奉天高等檢察廳長	同	徐維新	四九
吉林高等法院長	同	李文蔚	五二
北滿特區法院長	同	程崇	五〇
北滿特區高等檢察廳長	同	王肇勳	四七
案内者 司法部理事官 民事第一科長		菅原達郎	
繙譯官 司法部屬官		白石吉男	
隨從者 司法部總務司 雇員		李均祥	
同 司法部刑事司 雇員		高濟剛	

送  
員

1013

保存期限	決裁指定	委任	決行指定
------	------	----	------

房官臣大		課局務主		大臣			件名	受領番號
了結	領受	出提	領受	號番	陸洲國司法部			
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 九年 十一月 七日	昭和 年 月 日	軍事 第七 八號	滿洲國司法官見學ニ關スル件			陸洲國司法部 第三〇九號
(裁決)行決後		帶連		局長	主務	次官	政務	參與官
局長		局長		課長	主務	高級	副官	書記官
長課		長課		主務課員	主務副官	書記官	書記官	審案
代		代		增田	伊藤	書記官	書記官	審案

政務次官 回付  
 決裁前 連帶 兵務課 法務局  
 決行(決裁)後 回覽課名

起元應(課)名  
 滿洲國司法部

副官ヨリ第一師團參謀長宛通牒

本邦司法制度等視察、為來朝セル別紙滿  
洲國司法官ニ對シ來ル十一月九日（東京會場）午前東京  
衛戍刑務所、午後步兵第三聯隊ノ見學ヲ  
許可セラレタルニ付、便宜供與方可然取訂  
相成度依命通牒ス

陸海軍第一六四八號

昭和九年十二月七日

（印）

別紙

見學者氏名

奉天高等法院長

婁

學

謙

奉天高等檢察廳長

徐

維

新

吉林高等法院長

李

文

蔚

北滿特區高等法院長

程

崇

勳

北滿特區高等檢察廳長

王

肇

勳

案內者

滿洲國司法部理事官

菅

原

達郎

同

屬官

白

石

吉男

卷 頁

閣 啓

愈々御清秘ノ段奉慶賀候

陸軍省 第三〇九號



陳者今般別紙記載ノ豫定ヲ以テ當國司法職員ヲ貴國司法制度其ノ他  
 國情一般視察ノ爲ニ派遣致候ニ付テハ各地ニ於テ種々御厄介相掛可  
 申殊ニ建國後當部第一次ノ視察員ニシテ視察準備等ニ關シテモ萬端  
 不行屆ニ有之候爲彼是禮ヲ失スル場合等モ可有之ト懸念罷在候得共  
 何卒各般ニ亘リ御誘掖御指導被下旅行ノ目的ヲ相達候様御斡旋賜度  
 伏而御願申上候

康徳元年十月 日

滿洲國司法部總務司長 古田正武

敬 具



1017

日  
本  
視  
察  
司  
法  
官

康  
德  
元  
年  
度

司  
法  
部



案内者	繙譯官	隨行者	
司法部理事官 民事第一科長	司法部廳官	司法部總務司 雇員	司法部刑事司 雇員
菅原達郎	白石吉男	李均祥	商濟剛

現職	官等	姓名	年齢
奉天高等法院長	簡任二等	婁學謙	四三
奉天高等檢察廳長		徐維新	四九
吉林高等法院長		李文蔚	五二
北滿特區高等法院長		程崇	五〇
北滿特區高等檢察廳長		王鎰助	四七

1019

康德元年十月

司法官日本國視察日程表

司法部

司法官日本視察日程

新京出發 十月二十六日

新京歸着 十一月二十九日

所要日數 三十五日

一〇月	(金)	午後	四、三〇	新京發 (大連行急行)
二六日				
			一〇、三〇	奉天着
			一〇、四五	奉天發
二七日	(土)	午前	八、〇〇	大連着
			一〇、〇〇	大連發
二八日	(日)	航海中		大阪商船うすりい丸
二九日	(月)	早朝 (七時頃)		門司着
		午前	七、五五	門司發
			八、一〇	下關着
			九、一〇	下關發
		午後	一、一三	宮島着
				一泊

三〇日（火）午前 九、四八宮島發

一〇、一二 府島着

午后 二、五三 廣島發

三一日（水）午前 一〇、〇〇 東京着 一三泊

午后 宮城遙拜

司法省、公使館訪問挨拶

明治神宮、靖國神社參拜

十一月（木）午前 司法省裁判所辯護士會訪問並視察

正午 司法大臣招宴

午后 刑務所視察

夜 在野法曹主催晩餐會

二日（金）午前 東京癌研究所、榮養研究所視察

午后 日滿法曹協會總會（於軍人會館）

夜 滿洲國法曹觀迎大懇親會

三日(土) 午前 東京市長訪問

市内見物

正午 東京市長招宴

夜 観劇

備考 一日乃至三日ノ日程中二日午前ノ視察以外ハ日滿法曹協會

ノ行事ナリ

四日(日) 午前 休養

午後 東京朝日新聞社、東京日々新聞社參觀

五日(月) 午前 警視廳、憲兵隊訪問

午後 内務省、外務省陸軍省、海軍省訪問

内閣總理大臣官邸訪問

六日(火) 日光見物 即日歸京

七日(水) 午前 多摩御陵參拜

午後 八王子少年刑務所、多摩少年院、府中刑務所視察

八日(木)

九日(金) 午前及午后

十日(土) 午前及午后

夜

十一日(日) 午前

午后

十二日(月) 午前

午后

十三日(火) 午前

午后

十四日(水) 午后

陸軍關係各施設參觀  
東京商工會議所、日本銀行、手形交換所、株式取引所、中央卸賣市場參觀  
各種大工場參觀、鐘紡、王子製紙、日本ビール等  
本部主催日本司法關係招待晚餐會  
於工業俱樂部  
休養  
浴風園養老院參觀  
帝室博物館、帝國美術院展覽會參觀  
東京帝國大學、早稻田大學參觀  
橫濱地方裁判所視察  
橫須賀軍港參觀  
橫須賀ヨリ箱根へ  
箱根ヨリ歸京

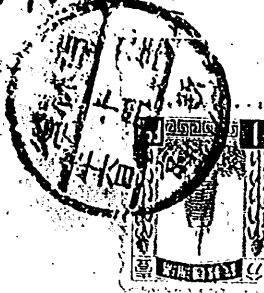
東京商工會議所、日本銀行、手形交換所、株式取引所、中央卸賣市場參觀  
各種大工場參觀、鐘紡、王子製紙、日本ビール等  
本部主催日本司法關係招待晚餐會  
於工業俱樂部  
休養  
浴風園養老院參觀  
帝室博物館、帝國美術院展覽會參觀  
東京帝國大學、早稻田大學參觀  
橫濱地方裁判所視察  
橫須賀軍港參觀  
橫須賀ヨリ箱根へ  
箱根ヨリ歸京

1024

東京市

陸軍省高級副官  
飯田貞吉

飯田



1025



司法部

滿洲帝國政府

用 0512



1026



通書第三〇九號

刑東

發衛第五三四號

昭和九年十月廿七日

海軍經由



陸軍省



滿洲國高等法院長等當刑務所見學狀況之件報告

昭和九年十月拾貳日

東京衛戍刑務所長 塚本定吉

陸軍大臣 林銑十郎 殿

本月九日滿洲國奉天高等法院長婁學謙外  
十六名當刑務所見學狀況別紙ノ通告大正十  
三年陸密第三六七號ニ依リ及報告候也

昭和九年十月九日午前十一時三十分至午後四時三十分滿洲國法院長等見學狀況報告

一見學一般ノ景況

見學者 奉天高等法院長 婁學謙

同 奉天高等檢察廳長 徐維新

同 吉林高等法院長 李文蔚

同 北滿特區高等法院長 程崇

同 北滿特區高等檢察廳長 王肇勛

同 最高法院推事 朱廣文

同 司法部秘書官 程義助

同 北滿特區地方法院推事 劉紹漢

同 北滿特區地方檢察廳長 王文林

同 新京地方法院推事廳長 楊繼桐

同 新京地方檢察廳檢察官 梁又新

同 奉天地方檢察廳檢察官 祝華封

同 滿洲國留日司法官

陸軍

<p>同 奉天安東地方法院推事庭長 高儒林</p>	<p>同 奉天高等法院推事 王永興</p>	<p>同 吉林高等法院推事 李荃</p>	<p>同 滿洲國司法部理事官 關榮濬</p>	<p>同 案內者 滿洲國司法部理事官 菅原達郎</p>	<p>同 屬官 白石告男</p>	<p>右見學者ハ本月九日午前十一時二十分來所 長ノ軍行刑ニ關スル説明ヲ約三十分間聽取シ</p>	<p>夕ル後所内監房練兵場作業場放蕩所炊事場等 ヲ巡視シ第四項記載ノ如ク若干ノ質疑ヲ爲シ</p>	<p>午後零時三十分退所セリ</p>	<p>ニ見學ノ目的 陸軍刑務所ノ施設行刑方法等ヲ視察見學シ自 國司法刑務行刑等ノ參考ニ資スルモノナリ</p>
-----------------------------------	-------------------------------	------------------------------	--------------------------------	---	--------------------------	---	--	--------------------	--

陸軍

三所長ノ説明

當日ノ收容人員既未決ノ別犯數罪名刑期別其  
他日課等ヲ述ヘタル後大要左ノ如クニ付説明ス

(1) 拘禁戒護ニ就テ

拘禁ハ收容人員ノ多寡罪質犯數行狀共  
犯關係等ヲ考慮シ獨居雜居ノ二種ニ別  
異拘禁セリ戒護ハ嚴正確實ヲ旨トシ晝  
夜間斷ナク森嚴ナル紀律ヲ勵行シ事故  
發生ヲ豫防シ苟免ノ餘地ナカラシムル  
ト共ニ絶對ニ意思ノ交通ヲ斷ツコトニ  
努ム

(2) 作業ニ就テ

作業ハ懲戒矯正ノ趣旨ニ合スルモノヲ  
選ヒ紀律ト衛生トヲ顧慮シテ之ヲ料シ

絶へス督勵ヲ加へ毫モ怠慢ノ餘地ナカ  
 ラシメ困苦ニ堪ユルノ性情ヲ養フト同  
 時ニ勞働ノ趣味ヲ解シ精勵勤勉ノ慣習  
 ヲ得セシムルコトニ努ム、曰下實施ノ作  
 業ハ總テ軍需品ノ新調修理等ナリ

(3) 教育ニ就テ

教育ハ精神教育、學術科教育ノ二種ニシ  
 テ精神教育(訓話訓誡)ハ所長看守長之ニ  
 當リ或ハ恒例ニ或ハ臨機或ハ個人ニ付  
 或ハ又集合セシメテ行ヒ及省ヲ促シ軍  
 人精神ノ涵養ニ努ム此外一週ニ回教誨  
 ヲ行フ學科ハ各兵科共通ノ軍事學ヲ教  
 へ又尋常小學三年修業程度以下ノ者ニ  
 對シテハ讀方、書方、算術等ノ普通學ヲ授

陸軍

クルコト、セリ以上ノ外放養上有益ナル書籍ヲ閲讀セシム放練ハ步兵操典ニ基キ軍紀放練ヲ行ヒ又基本体操等ヲ實施ス

(4) 給養並ニ衛生ニ就テ

満刑後ハ軍隊ニ復歸シ直ニ隊伍ニ加ハル者ナルカ故ニ常ニ强健ナル体カヲ保持セサルヘカラサルモノナルカ行刑ニ依ル身心ノ痛苦ハ動モスレハ体カノ減耗ヲ來ス虞アリ故ニ体力維持増進ノ爲先ツ糧食給與ニ付格別ノ注意ヲ拂ヒ居レリ給與分量ハ主食ハ軍隊ト同様ナルモ賄料ハ約其半額ナルヲ以テ榮養ニ付遺憾ナキ様特ニ注意シ糧食品ノ調辨調

理ニ工夫ヲ凝ラシ給與價値ノ増大ヲ圖  
 リ一面衛生施設ノ完備衛生思想ノ向上  
 個人衛生ノ勵行等ト相俟ツテ体力ノ向  
 上ヲ圖ル

(5) 陸軍刑務所特設ノ理由ト其特色ニ就テ

最後ニ軍刑務所ノ特設セラレタル理由  
 ト軍行刑ノ特色トモ言フヘキ矣ト述フ  
 レハ普通刑務所ノ行刑ハ軍事ノ必要ト  
 相容レサルモノアリ茲ニ於テ軍刑務所  
 特有ノ行刑法アル所以ナリ普通刑務所  
 ニ於テハ釋放者ヲ一般社會ニ復歸セシ  
 ムルモノナルニ依リ其行刑ハ社會生活  
 ニ適スル如クシ我軍刑務所ニ於テハ收  
 容者ハ悉ク現役軍人ナルガ故満刑後ハ

陸軍

直ニ軍隊ニ復歸セシムルニ依リ軍隊生  
活ニ適應スル如ク教化改善スルモノニ  
シテ諸般ノ設備皆此ノ目的ニ背馳セサ  
ルコトニ努ムルモノナリ以下數項主要  
ノ臭ヲ述フレハ(イ)收容者ノ多クハ軍人  
ノ義務ヲ解セス體面ノ重ンスヘキヲ知  
ラサルヲ普通トスルカ故ニ之ヲ矯正救  
治シテ義務ヲ解シ體面ノ重ンスヘキヲ  
知ラシムルコトニ努メ(ロ)拘禁行刑ヲ爲  
スニ付テモ大ニ軍人ノ體面ヲ重ンジ爲  
シ得ル限り之ヲ傷ケサルコトニ注意シ  
(ハ)拘禁ノ本旨ニ違ハサル限り軍人收容  
者ノ起居眠食ノ状態ヲ兵營内ニ在ル軍  
人ノソレト擇フナカラシムルコトニ注



意シ(三)出所後ハ再タヒ兵役ニ就キ軍務  
 ニ服スル者ナルコトヲ遺忘セシメサル  
 如ク敬養シ其他(ホ)軍事ニ有益ナル教育  
 ヲ施シテ既教育ノ維持若シクハ向上ヲ  
 圖リ紀律心ヲ養ヒ軍人精神ノ涵養ニ努  
 ムル等ナリ

#### 四 兎學問質疑セシ事項

- 一 雜居ハ大抵四五名ナリヤトノ問ニ對シ
- 二 三名ノ室モアリト答フ
- 一 室内ノ隅ノ低キ處ハ何ナリヤトノ問ニ對シ  
便器ヲ置ク所ナリト答フ
- 一 銃ハ隊ノ銃ト同様ナリヤトノ問ニ對シ  
然リト答フ
- 一 晝食ノ副食物ヲ見テ此レニテ一食ナリヤトノ問ニ對シ

陸軍

然リト答フ

一カ業ニ服スル者ノ主食ヲ取リ上ケ量目  
ヲ試スカ如ク上下シタル後試食シ且ツ  
量目ヲ問フ

此レカ先程申述ヘタル米六百丸麥百  
八十六丸ノ飯ナリト答フ

一洗面所ニ於テ皇室ノ方位ヲ示シタル表  
示板ヲ見テ此レハ何ナリヤトノ問ニ對  
シ

洗面後先ツ皇室ニ向ヒ最敬禮ヲ爲サ  
シムル爲其方向ヲ知ラシムルモノナ  
リト答フ

一所内ニ入りテモ刑務所ノ感シハ致サス  
先程御説明ノ通り軍刑務所ノ特色カ能

ク現ハレ總テ軍隊ヲ見ルヤウナリ殊ニ  
 收容者ノ動作ノ確實ナルコト衛生ノ行  
 届イテ居ルコト物ノ整頓ノ正シキコト  
 等ニハ感服セリト云フ

一監門ヲ出ル際所長殿ハ此ノ職ヲ何年程  
 從事スルヤト問フ

三十一年餘ニ亘ルト答ヒタルニ

一永キ間ノ尊キ經驗ニ依リ割り出サレテ  
 施設セラレタル御所ヲ拝見シテ私達ハ  
 尊キ幾多ノ好資料ヲ得タリト云フ

五其他参考トナルヘキ事項

見學中一行ノ態度ハ頗ル謹嚴言語モ亦丁寧ニ  
 シテ各所ノ施設ニ賞讃ノ意ヲ表シ熱心ニ見學  
 シタリ見學事項ハ奉天高等法院長ヲ除ク外各

陸軍

自ニ筆記シ同院長ハ主トシテ通譯者ヲ介シ説  
明事項ノ聽取質問等ノ任ニ當レリ退廳ニ臨ミ  
奉天高等法院長一同ヲ代表シ左ノ如キ謝辭ヲ  
述ヘ退出セリ

前ニモ申上マシタヤウニ總テノ設備カ立  
派ニ出來テ居ルコトハ感服致シマシタ殊  
ニ軍刑務所トシテ特別ナル諸施設ヲ拜見  
シタコトハ大ナル参考トナリマシタ  
御多用中長時ニ亘リ懇切ナル御説明ヲ辱  
フシ喜ヒニ堪ヘマセン謹シテ御禮申上マ  
ス